

坂戸市

実施教室数	13教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	4・5年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	15人	ボランティア数	79人

教室紹介

教室名	学力のびのび塾	活動場所	公民館・交流センター等
参加対象	4・5年	参加者数 (1日平均)	約13人
活動内容	小学4年生が3年生の、小学5年生が4年生の国語・算数を学習する。前年度の学習を行い、「分かる」経験を積むことで、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。また、地域の人材を学習支援員として活用することで、支援員にとっても教える喜びを感じ、地域へ貢献する機会として機能し、活力ある地域づくりの一助とする。 参加児童と学習支援員は1回目から最終回まで同じ教室に参加する（原則）。そのため、学習支援員の指導も回数を重ねるごとに児童それぞれに合ったものとなっている。 教室は地域の公民館等を使用し、参加児童の所属する学区の会場を確保できるよう会場数の設定をしている。また、小学校の土曜日授業等を考慮した不定期な開催日のため、開催日直前の水曜日に事前にメールアドレスを登録した保護者宛に日程忘れ防止のお知らせメールを配信した。		
連携団体	なし		
活動の成果	事業は5年目となり、保護者などにも定着してきている。会場数が増えてきたことにより、児童が参加しやすい環境が整ってきた。また、各会場に配置する国語辞典や漢字辞典、プリント冊子なども充実してきた。 反面、会場数や参加児童の増加により学習支援員の確保が課題となっているが、参加した学習支援員は地域の小学生とのかかわりを持ちながら社会参加することができ、支援員同士の交流も生まれている。学習支援員は教員経験者が多いが、募集の際に広く声をかけることで、地域の一般の方も増えてきている。 社会教育指導員の経験を持つ元校長である統括コーディネーターを配置すること、学校教育課、教育センターなどと連携していることで、様々な視点で事業を検討できた。		



【指導の様子】
児童と一緒に考えます



【教室の様子】
挨拶をしてから、集中して学習を始めます

鶴ヶ島市

実施教室数	1教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	小学校5年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	4人

教室紹介

教室名	土曜学習会	活動場所	鶴ヶ島市立図書館
参加対象	小学校5年	参加者数 (1日平均)	30人
活動内容	学習内容の量が多くなるとともに、つまずきが生じやすい小学校5年生を対象にして開催している。知識・技能の確実な定着と、活用力や応用力の一層の向上を図ることを目的に、国語と算数の2教科で、該当学年のプリント学習と学習支援ソフトが入っているタブレットPCを活用した学習を行っている。 児童30人をAとBの2つのグループに分けて80分間学習に取り組む。プリント学習は、該当学年の内容に取り組むことにしているが、タブレット教材については、周囲の目を気にすることなく、自主的に内容を選んで学習に取り組むこととしている。その中で、分からないことや詳しく聞きたいことについては、学習指導員に質問し、教えてもらうこととしている。 【工夫している取り組み】 ○該当学年の学習内容のプリントを参加児童全員に取り組ませ、詳しく聞きたいことについては、教員免許取得者の元教員から指導してもらえるようにしている。そのため、学校での学習内容の確実な定着につながるようにしている。 ○学習支援ソフトを活用したタブレットPCでの学習では、周囲の友達の視線を気にすることなく、1年生から4年生までの学習も含めた児童の取り組みたい学年の学習に取り組めるようにし、児童の意欲や学力に合わせて学習できるようにしている。 ○参加者を選考する際には、意欲を記載させ児童の意識を選考基準にした。開校式後のオリエンテーションでも、一年間の到達目標を決めて、毎回目標を振り返りさせながら取り組んでいる。そのため、時間中は、集中して取り組んでいる。		
連携団体	なし		
活動の成果	年度当初に自分自身で一年間の到達目標を決めている。アンケートによれば、自分が決めた目標を達成した・達成できる見込みと答えた児童が8割を超え、自主学習の習慣が身につく、主体的な学びを促すことができている。 来年度についても5年生を対象に実施する予定であるが、参加した子供たちのほとんどから、「次の5年生にも勧めたい」との感想を寄せられており、手ごたえを感じている。今年度の実施状況を踏まえて、学習内容の更なる充実を図っていきたい。		



【タブレット学習】

個々の進度に応じた学習に取り組む様子



【指導・支援】

指導員・指導補助員からの個別支援

毛呂山町

実施教室数	2教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	4・5年	平均開催日数	19日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	19人

教室紹介

教室名	もろ丸くんまなびアップ教室	活動場所	毛呂山中央公民館 歴史民俗資料館
参加対象	4・5年	参加者数 (1日平均)	毛呂山中央公民館 18人 歴史民俗資料館 17人
活動内容	毛呂山町の土曜日の教育支援事業は、町のマスコットキャラクターの名を冠した「もろ丸くんまなびアップ教室」を実施しており、今年度で3年目である。参加児童の家庭学習を支援するとともに児童の基礎学力の定着を図ること目的として実施した。 小学校4校が2つの中学校区に分かれるため、中学校区毎に1教室ずつ、中央公民館教室と歴史民俗資料館教室の2教室を設けて実施している。対象は、いわゆる「小4の壁」を念頭に、小学4年生と5年生の児童を対象とした。 主な教科は、算数と国語で、算数は教科書の復習や学習支援員が準備したプリントを用いた指導を行っている。 国語は、毎回感想文を作成し、合わせて発表を行う。 昨年度と同様に学年単位のグループ学習の形態をとっており、各グループに学習支援員がつき、学習指導にあたる。		
連携団体	城西大学		
活動の成果	指導にあたるのは、教員経験者の土曜教育コーディネーター、学生を中心とした学習支援員、また経験豊富な学力向上支援員を配置している。 指導する学習支援員は、城西大学に教員養成課程履修学生の派遣について協力を要請している。 グループ学習は、きめ細やかな学習指導が可能で、また参加児童も、解らない事柄を聞きやすいという点で効果的である。昨年度参加した児童の学力の伸びが確実に認められたことから、グループ学習の形態が、「学びアップ教室モデル」として定着してきている。		



【中央公民館教室の様子】

3教室を使い、レベル別にグループ分けしています

【歴史民俗資料館教室の様子】

少人数制で一人一人に合わせた指導

越 生 町

実 施 教 室 数	2教室	対 象 学 校	全小・中学校
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	17日
コーディネーター数	2人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	0人

教室紹介

教 室 名	越生子ども未来大学	活 動 場 所	公民館、町内小・中・高等学校
参 加 対 象	全学年 (一部小学3～中学2年生)	参 加 者 数 (1日平均)	31人
活 動 内 容	宇宙、音楽、芸術、昆虫、外国語など様々な分野から12講座を実施した。 ○「越生町のホタルと発光のしくみ」 【実施日】7月15日(月・祝) 【参加者数】21名 越生町と日本のホタルの種類。ゲンジボタルの地域による発光の違い、生物の発光のしくみなど、講師の方のお話と発光実験を通して学ぶ。 ○「英語で遊んでみよう！」 【実施日】8月1日(木) 【参加者数】38名 A L Tと簡単な英語を使ってコミュニケーションをとりながら、歌や踊り、ゲームなどを通して英語に親しむ。		
連 携 団 体	町内小・中学校、清和学園高等学校、昆虫談話会		
活動の成果	各講座でさまざまな体験や実験などを行ったことで、子供たちからは驚きや感動の声があふれていた。 各学校の先生方や、各分野の専門家の方に講師を依頼したことで、充実した講座内容となり、子供たちの興味や関心を深めることができた。 〈講座に参加した子供たちの感想〉 ・ホタルの光る仕組みがよくわかりました。楽しかったです。 ・ホタルにはいろいろな種類があって、光るものと光らないものがあると知り、おどろきました。教えてくれてありがとうございます。 ・ゲームをしたり、皆でタワーを作ったり、英語で交流でき、とても良かったです。		



【越生町のホタルと発光のしくみ】

昆虫談話会の方々に、ホタルの発光の仕組みを教わるとともに、地域に生息するホタルについて学んだ。



【英語で遊んでみよう！】

A L Tと簡単な英語を使ってゲームをしたり、グループに分かれて英語の指示を聞きながら工作を作るなど、英語でのコミュニケーションを図った。

熊谷市

実施教室数	1教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	17日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	50人

教室紹介

教室名	ウィークエンドサイエンス	活動場所	熊谷市全域
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	40人
活動内容	1回目 和田吉野川の水質調査 2回目 別府沼公園の自然観察 3・4回目 サイエンスショー 5・6回目 おもしろ実験教室 7・8回目 液体窒素の実験 9回目 赤城山の自然観察（台風により中止） 10回目 ポンポン船 11回目 音って不思議 12回目 お砂糖七変化 13回目 植物の不思議 14・15回目 万華鏡作り 16回目 プログラミング体験 17回目 ペットボトルロケット		
連携団体	熊谷の環境を考える連絡協議会、埼玉県河川環境団体連絡協議会、平塚新田自治会 別府沼を考える会 等		
活動の成果	普段は近づくことのできない川や沼に住んでいる生き物や、植物の様子を観察することで、熊谷市の自然や生き物の生命の大切さを学ぶことができ、参加者はとても満足していた。 サイエンスショーでは、不思議な実験を行うだけでなく、なぜそのようになるのかを予想させ、実際に目で確かめることで、科学的な思考力を高めることができた。「夏休みの自由研究のヒントにしたい。」という児童も多数見られた。 親子体験型のため、子供だけでなく、保護者も科学的な体験や実験に興味をもって参加していた。「家でも子供と一緒にやってみたい。」「自分の子供のころにこんな事業があればよかった。」という声が多数あった。 今年度は、プログラミング教育必修化をふまえ、新規事業として「プログラミング体験教室」を企画した。定員の7倍もの申し込みがあり、子供たちや保護者の関心の高さがうかがえた。		



【和田吉野川の水質検査】
フィールドワークを体験



【サイエンスショー】
多数の児童・保護者が参加

深谷市

実施教室数	19教室	対象学校	19小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	26日
コーディネーター数	19人	ボランティア数	150人

教室紹介

教室名	「がんばル〜ム」(桜ヶ丘小学校「がんばル〜ム」)	活動場所	図書室、空き教室
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	25人
活動内容	主に算数と国語を中心に市販のワークを使用し、「ちいきの先生」が個別学習の指導・相談を行っている。 様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士でわからないところを教え合うなど、異学年交流の場ともなっている。 「がんばル〜ム」の活性化に向け、勉強だけでなく運動も取り入れる目的で、市スポーツ推進委員会による「軽スポーツ教室」を実施し、「ふっかちゃん体操」「ドッジビー」を教えてもらい、子どもたちは楽しみながら体を動かす。 桜ヶ丘小学校では、図書室など3つの教室で8人の「ちいきの先生」が自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることで、子供のペースに合った学習をすることができる。また、ハーフタイム(休憩時間)の自由遊びや運動を通して異世代・異年齢の交流を図っている。 「ちいきの先生」は、子供と接するのが好きな方や、教育または学習塾等で子供を教えた経験が豊富な方等から一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録を行っている。 子供の安全を確保するため、避難訓練も実施している。		
連携団体	スポーツ推進員		
活動の成果	完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。 子供たちへのアンケートでは、「勉強やハーフタイム、お友達や先生と話すことが楽しかった」「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。 勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。		



【学習の様子】
ちいきの先生による支援



【帰りの会】
あいさつもすっかり

寄 居 町

実 施 教 室 数	1 教室	対 象 学 校	6 校
主 な 対 象 学 年	6 年	平 均 開 催 日 数	2 5 日
コ ー デ ィ ナ ー 数	1 人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	4 人

教 室 紹 介

教 室 名	より・E英語塾	活 動 場 所	寄居町役場
参 加 対 象	6 年 生	参 加 者 数 (1 日 平 均)	4 5 人
活 動 内 容	寄居町立各小・中学校にALTを派遣している業者に業務を委託して実施している。 ○7月下旬から2月下旬まで、原則土曜日に全25回実施。 ○町内6校の6年生を対象に、英語を使ったコミュニケーション(英会話)の授業を50分間行う。 ○授業は日本人講師と外国人講師で行い、すべて英語でコミュニケーションをとる。 ○7月から9月までの3か月間で、自分のことについて英語で話せるようにする。 10・11月の2か月間で、日本や世界各国について英語で紹介できるようにする。 12月には、「読むこと」と「書くこと」の活動を行う。1・2月には、今までの復習を兼ねて、自分で課題を決め、英語で発表会を行う。		
連 携 団 体	(株)RCSコーポレーション		
活 動 の 成 果	○授業がすべて英語で行われる。ゆっくりたくさん聞かせることで、うなずいたり、身振りや手振りなどを使ったりと、コミュニケーションがとれるようになった。 ○ペア学習、グループ学習をたくさん取り入れ、積極的に取り組むことができるようになった。 ○中学校に進学しても、英語が楽しみだという児童からの声が聞かれた。 ○町内6校の児童が集まり同じ場所で学ぶことで、友達関係が広がり、円滑な人間関係を構築することができた。		



【季節・月・日付けの伝え方について】

～ この行事は、何月何日？ゲーム ～
U字型に椅子を並べ、先生と児童、児童と児童の距離を縮めている。

【グループ学習 アクティブラーニング】

ALTと目を合わせて自分の意見を伝えたり、友達との会話に耳を傾けうなずいて聞いたりする姿が見られるようになった。

三 郷 市

実 施 教 室 数	6 教室	対 象 学 校	全小・中学校
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	15 日
コーディネーター数	2 人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	0 人

教室紹介

教 室 名	中学生自習教室 中3入試教室	活 動 場 所	各会場
参 加 対 象	中学校1年～3年	参 加 者 数 (1日平均)	10人
活 動 内 容	(1) 中学生自習教室（どよごご） ○市内の中学1～3年生を対象とした自習教室（どよごご）を、南北2会場で土曜日の午後に学期5回計15回実施した。市内各校から生徒が集まり、意欲的に宿題や定期テストの学習等に取り組んだ。分からない問題があれば、いつでも気軽に質問をし、單元ごとにまとまっているプリントを自分で選び、自分の力を確かめながら学習を進めた。 (2) 中3入試特訓講座（にっとく） ○市内の中学3年生を対象に、9月～12月の日曜日の午前に計8回実施した。講座は、全国公立高校入試問題演習と解説を中心に、数学・英語の2教科で各100分間である。多い回は20名が参加した。		
連 携 団 体	なし		
活動の成果	○市内の中学生を対象とした自習教室は2年目となる。今年度から2会場同時開催としたため、部活動帰りの生徒が気軽に立ち寄り、各自が計画した課題の解決に向け取り組んだ。1年生の参加が多く、次年度以降も継続し参加することを期待している。また、7年目となる中3入試教室も実施した。講師は、市内中学校教員が中心となり行った。関東公立高校の入試問題を扱った回は、特に参加者が多かった。 ○市内中学生が、家庭での予習・復習や中間・期末テスト・入試試験などの対策に積極的に取り組むとともに自主性と学力の向上を図った。		



【中学生自習教室】
個に応じて課題解決に取り組んでいる